

平成21年 第4回定例会一般質問

○議長 横尾 武志君

5番、小田議員の一般質問を許します。

○議員 5番 小田 武人君

お疲れさまでございます。5番、小田でございます。一般質問させていただきます。

皆様方も既にご承知のとおり、平成21年10月27日付でもちまして、防衛省より、迎撃ミサイルPAC3が10月28日に芦屋基地に配備されるという通知があり、これが実施されたということでございます。このことに関しまして、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

件名といたしましては、迎撃ミサイルPAC3の配備について、要旨については、PAC3が芦屋基地に配備されることにより基地機能が強化されることになる。このことによって住民の負担増になるのではないかと危惧するわけでございますが、町としてどのような対応をされたのかお尋ねをいたしまして、1回目の質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。総務課長。

○総務課長 占部 義和君

それでは、町としてどのような対応をされたのかということについてお答えいたします。

このPAC3の配備に関しましては、従前より適宜説明なり通知を受けてまいりました。しかしながら、国防上の案件でもありまして、反対表明というようなことまでは行っておりません。そこで、町の対応といたしましては、議員ご存じのとおり、10月23日の議会全員協議会において、その概略についてはご報告しておるところでございますが、実際に配備された後の行動ということですが、配備されたという事実に基づきまして、所管であります企画政策課のほうから、町長名で、九州防衛局長に対して、特定防衛施設周辺整備調整交付金の増額要望を行っております。

また、今後、税務課所管の基地交付金につきましても要望してまいる所存でございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

小田議員。

○議員 5番 小田 武人君

町としてはこの配備については反対しないと。私どもも当然このことについて反対するものではございません。基地交付金の増額等々の要望をなされたということでございますが、この迎撃ミサイルPAC3が配備されるということは、芦屋基地の機能が強化されるということになるの

ではないかと思います。住民の皆さん方から芦屋基地に対する評価としましては、若い隊員さんの教育訓練の場とか、あるいは災害救助を任務とする救難隊の常駐基地であると、その程度の評価であろうというふうに思います。そこに最新鋭の迎撃ミサイルPAC3が配備されたということは、当然、基地機能の強化であり、有事の際にはここが標的となる可能性があるんじゃないかならうかと思われます。

そのことが住民にとって新たな精神的な負担になろうというふうに危惧するわけですが、そこで、町はPAC3の配備が芦屋基地の機能強化と判断されているのかどうか、あるいはまた住民の皆さん方の精神的な負担がふえるというふうに見られているのかどうか、その点についてお尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

企画政策課長。

○企画政策課長 鶴原 洋一君

町長名で、10月のPAC3の第一陣の配備を受けた後の11月に防衛省の九州防衛局長に対して要望をしたところでございます。その中で、このPAC3の配備については明らかに基地機能の強化を図るものであり、すなわち基地に係る態様の変更であると認識しているということとで要望書の中に一文加えておりまして、強化につながるというふうに考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

総務課長。

○総務課長 占部 義和君

PAC3が配備されることによって敵国からの攻撃目標になるのではないかという危惧が住民の間でも抱かれるのではないかと、そういうご指摘でございますが、これは相手国がどう思うかといえますか、そういうことも関連してくると思います。国防上のことでありますので、これ当然政府なりには見解があらうかと思いますが、私個人的には、そういった懸念があるというのも事実の一つであらうとは思っております。一般論として。

それと、逆にこういう機能を持ったPAC3が配備されるということは、仮に某国がミサイルを発射したときに、この芦屋基地にはそういう迎撃するPAC3が配備される。そこで、空中で打ち落とすことによって住民の生命と財産が攻撃——破壊されなくて済む、そういった機能もあるというのも一般論ではありますが事実であらうと思います。

それから、ここまで突っ込んでお話ししているのかどうか分かりませんが、仮にそういうことを企てておるような国があるとするならば、いや、日本に向けて打つても、そういう迎撃する機能を持ったPAC3が配備されているんだ。仮に発射すればそれでこちらは迎撃します。それと、

そういう攻撃用のミサイルを発射するということに関しましては、当然日米同盟を結んでおるわけですから、日本だけではない、米国からの報復といいますか、そういうのも当然覚悟した上でないと発射できない。そういった意味では一定程度の抑止効果はあるというのも一般的に言われている概念ではなかろうかと、そのように思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

小田議員。

○議員 5番 小田 武人君

この迎撃ミサイルPAC3が配備されたことにつきましては、いわゆる基地機能の強化、したがって、態様の変更であるということで、町のほうもそのような認識のもとに、先ほど所管課長のほうからお答えいただきましたように、国に対する交付金の増額等々の要請をされたということでございますが、基地機能の強化、いわゆる態様の変更というところまで国のほうがとらえておるのかどうなのか。いわゆる町の要望に対する国の反応、これがわかりましたらお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

企画政策課長。

○企画政策課長 鶴原 洋一君

このPAC3の導入につきまして防衛省の考え方は、当初から態様の変更には当たらないという考え方が示されております。これについては私ども芦屋基地、それから築城基地でも同様な回答がなされております。したがって、そうではないんですよということを強く今回の要望書でお示しをして、今後、調整交付金の増額要望をしたところでございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

小田議員。

○議員 5番 小田 武人君

特に基地交付金等の増額を図るために、こういう機会をとらえて国に働きかける、これが非常に大事なことであろうと思います。先ほど所管課長が申しますように、国側としては態様変更には当たらないというふうなとらえ方はされているは新聞紙上でも報道されておりました。そのことについては私どもも理解はしておりますけれども、いずれにいたしましても、こういう機会をとらえて基地交付金、今1億3,000万程度ですか。こういうものの増額。その他いろんな制度があるわけですが、これについての適用拡大等々もこの機会をとらえて強力に国に働きかけるべきであろうというふうに考えております。そういうことで、今後とも国への要望等々、強く続

けられるように要望いたしておきます。

続きまして、関連質問をさせていただきたいわけですが、新聞報道等で国の一般会計の税収が当初予算の４６兆円の見通しが９兆円程度下回って、約３７兆円と。２４年ぶりの低い水準になるというふうなことが報道されておりますが、地方交付税も含めた中で、総額で３兆円程度減少するような見通しであるというようなことも報道されておりますが、このようなことに伴って、芦屋町の平成２１年度予算の歳入として見込まれているのが、国有提供施設等の市町村助成交付金、いわゆる先ほどから話が出ております基地交付金に当たる内容でございますが、この１億３，０００万円、これへの影響があるのかどうか、その点をお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

税務課長。

○税務課長 入江 真二君

税務課から説明させていただきます。まず、基地交付金でございます。対象試算といたしましては自衛隊が使用する飛行場、演習場、弾薬庫、燃料庫及び通信施設の用に供する土地建物及び工作物となっております。このうち、芦屋基地では飛行場と演習場が該当しております。

お尋ねの来年度の予算ですが、現在、国の基地交付金の総予算は、この３年間、３２５億４，０００万円と変更しておりませんが、総務省の平成２２年度の予算要求額は３３５億４，０００万と１０億円増の要求となっております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

小田議員。

○議員 ５番 小田 武人君

芦屋町の一般会計の当初予算で基地交付金として、１億３，０００万円予算計上されているわけですが、これへの影響、いわゆる国税の中で非常に減収というような形のものがあるわけですが、こういう背景を見込んだ中で基地交付金１億３，０００万への影響があるかないか、そのあたりいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

税務課長。

○税務課長 入江 真二君

芦屋町の基地交付金は今年度、予算では１億３，０００万を見込んでおりました。これは２０年度の実績分相当でございますが、この基地交付金の配分については予算総額のうち１０分の７については対象資産で案分しており、残りの１０分の３については対象資産の種類、用途、市町村の財政状況等を考慮して配分されることとなっております。

今年度の配分につきましては各市町村の財政状況の悪化により、交付団体が昨年よりふえたというような理由を聞いておりますので、芦屋町でも昨年に比べ7.8%の削減で、1億3,000万のところを1億2,000万という交付額になっております。しかし、来年度の総予算で10億増の要求額が通れば、今の1億2,000万の額よりはふえるのではなかろうかというふうに期待しております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

小田議員。

○議員 5番 小田 武人君

基地交付金だけで、今年度は1,000万程度の減額になる見通しであるというお話でございますけれども、こういうものについても、やはりこの機会に現状、あるいは増というような働きかけをぜひしていただきたいなというふうに思っております。

続きまして、情報があればお伺いしたいんですが、基地内の体育館の改修計画、これについての何らかの情報がございましたらお尋ねいたしたいと思います。

○議長 横尾 武志君

総務課長。

○総務課長 占部 義和君

現時点で私といいますか、基地との関係の窓口は総務課でございますが、その辺の改修計画云々についての情報はいただいております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

小田議員。

○議員 5番 小田 武人君

町長にちょっとお尋ねいたします。芦屋基地との相互理解により、ともに繁栄すること、いわゆる共存共栄についてでございますが、この共存共栄について現状ではどのような評価をされているのかお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

このPAC3に絡みましてのちょっと共存共栄という形、関連しているのだと思うわけですが、前回の基地との関係のときもお話したと思うんですが、もう、当初芦屋基地が来て以来50年・半世紀近くなるわけでございますが、もう一つの基地というよりも芦屋の町の中にもう

同化したものであろうというふうに私は考えております。

で、共存共栄という言葉が長い間使われておりますが、私はマニフェストの折にも、基地との積極的な交流をし、芦屋町内においても少子高齢化がどんどん進んでいく中、芦屋基地の隊員さん、おられる方々、芦屋町のために協働という形の中でまちづくりを一緒にしていただきたいという思いがあるわけであります。

そして、このPAC3の問題が出てきたわけですが、これは私の個人的というか、町長としての話になるわけでありますが、PAC3の前にPAC2があったわけです。今回、PAC3が今まで迎撃、このようなものがなくて、そして導入されるということであれば大変な問題であろうかと思うわけですが、先ほど課長からる説明がありましたように、有事の際というか、某国という言葉で使わせていただきますならば、ご存じのように日本海のほうに打っておるというような事実もあるわけであります。どういうことをするかわからないということで、ある一面、これは国防の問題であります、日本の安全安心というよりも、ある一面この遠賀郡地域の安全安心のためでもある側面を持っておるのではないかと考えておるわけであります。

しかしながら、先ほど来小田議員が申されておりますように、この様態が変わったということとこのことは私は区別いたしたいと思えます。企画課長が先ほど申されましたように、すぐさま防衛省の九州防衛局のほうに要望書を出しております。それから、県の町村会におきましても、築城の新川町長さんとお話させていただきまして、基地の全国の協議会がございます。その折にちょっと話を、こういうことはPAC3が配備された基地の首長同士、一度もしそういう協議会のときに協議して防衛省のほうに強く要望していく。ということは何かということ、交付金の問題であります、していこうというふうで話はしております。

ただ、いかんせん政局がかわりまして、陳情のやり方が今ちょっと、どこの市町村の首長さんも戸惑いがある、今様子見というか、どのようにして陳情していいかということで戸惑っているというのが現状でありまして、先月、政権交代に伴って福岡のほうに全国の首長さん招集という連絡がありまして、政権与党のほうから、地域の陳情窓口、地域主権推進会議をつくったということで、今からはこの政権の県連が陳情の内容を精査し、そして党に上げるというお話がありました。しかし、その後のアクションがあっておりませんので、所管であります九州の防衛省の九州防衛局長あてに取り急ぎ要望書を出させていただいたということで、今後、小田議員ご指摘の要望活動につきましては強力に関係機関と、それから関係市町村と歩調をとって、強力に押し進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

小田議員。

○議員 5番 小田 武人君

国に対する要望等の折につきましては、先般から行橋市ほかの首長は国に対する要望をいたしますと。これにつきましては、基地機能の強化、いわゆる築城基地の機能の強化、いわゆる態様変更ということでの要望をいたしますという話でございましたけれども、昨日、5日付の新聞によりますと、これを要望したということで、芦屋町も同じような行動をとったということでございますので、今後はこういう同じような状況のところと協議を進めながら、同一行動をとられるようなことのほうが効果的じゃなかろうかというふうに思います。

いずれにいたしましても、基地との相互理解、このことが芦屋町の発展に大きく影響を及ぼすというふうに思われますので、今後とも積極的に基地との交流を図られることが大切であろうというふうに思っております。

続きまして、今年の第1回の定例会におきまして、基地との問題を処理するための協議会の設置について、町長は設置について前向きに検討したいというような答弁をなされておりましたが、このことについてその後の経緯をお尋ねいたしたいと思います。

○議長 横尾 武志君

総務課長。

○総務課長 占部 義和君

室原議員のご指摘、一般質問の折に確かにそういうご指摘があったわけですが、今現在、現時点で具体的にどうしようということまでは確定しておりません。室原議員の質問の折には、近隣の町あたりを調査しましたところ、例えば議会と執行部、それから住民を巻き込んでの協議会なるもの、これ少なくとも北九州市、八幡西区、水巻、遠賀、この辺にはなかったわけで、もちろん芦屋も現在ありません。民間主導といいますか、水巻とか八幡西区におきましては、自治区、T4の練習機のちょうど真下あたりで騒音の激しい区域、防音対象であるとかNHKの受信料の半額補助がされておる——半額補助というか、最初から半分しか徴収せんわけですが。そういった地域の方々を中心に、民間レベルでのそういう協議会というか自主的な組織はあるけれども、そこに行政が入って、また議会が入ってという組織はございませんでした。それについて今後ともそういうものについて検討している最中でございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

小田議員。

○議員 5番 小田 武人君

今回のようなPAC3の配備等々の問題もございますので、いろんな課題について、基地との協議が必要であろうと思いますので、できますれば早急に協議会の設置に向けて調整をしていた

だければというふうに思っております。

最後になりますけれども、この芦屋基地に迎撃ミサイルが配備されたということは、町民の皆さんにとりましても極めて重大な問題であるというふうな認識が必要であろうと思います。芦屋基地の機能強化、いわゆる態様の変更という事実に伴って、国に対してさまざまな要望するよい機会であろうと思われますので、例えば防衛施設周辺民生安定施設整備事業、あるいは特定防衛施設周辺整備調整交付金等の対象枠の拡大とか、先ほど申しましたように、国有提供施設等の所在市町村助成交付金の増額等々につきまして、強く国に働きかける非常にいい機会であろうというふうに思います。

また、基地に対しましても、基地のほうから地元の声として、国に対して芦屋町に対するいろんな支援策、そういうものを基地のほうからも国に対する働きかけをしていただくことが非常に大切であろうと思いますので、そういうことも含めまして、今後とも基地と協議しながら、連携をとりながら、町の発展のために尽くしていただけるよう申し上げまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長 横尾 武志君

以上で、小田議員の一般質問は終わりました。